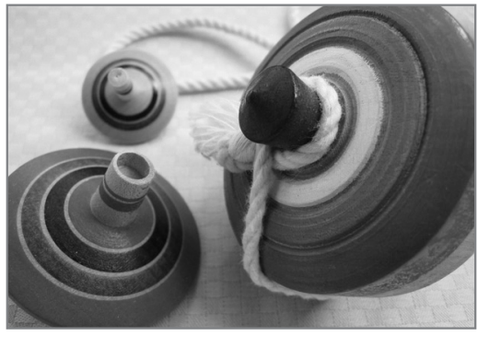
昔の遊び集

同じような遊びでも、地域や時代によって、名称や遊び方は異なるケースが多くなります。ここでは、おもな遊びの一般的な遊び方を、一例として紹介します。

種類	遊びかた
石けり	石を蹴って行う遊び。地方や時代によって遊び方は異なるが、次の２種類のどちらかの近似が多い。①各ルールに応じた数の区画を地面に描き、手前に線を引く。そこから第1の区画に石を蹴り入れて片足跳びで入り、石を線外に蹴り戻す。全区画を一番早く完了した者が勝ち。②第1の区画に石を投げ入れて、その石を蹴りながら全区画を跳び回る。名称は、「くらとり」「おんせん」「うさぎとかめ」など、地方等により異なる。
缶けり	空き地などで5~10名程度で遊ぶ。地方等により遊び方は微妙に異なる。一般的には、広場の中心に切り口を下にして空き缶を置く。１人が鬼になり、鬼以外の誰かが缶を蹴る。鬼が缶を取りにいっている間に鬼以外は隠れる。鬼に見つかったら捕らえられ、缶のエリアに繋がれる。全員が捕まれば終わり。ただ、全員が捕まる前に誰かが缶を蹴ることができれば、捕まっていた子たちは逃げ、また隠れられる。
コマ遊び（※１）	遊び方は様々で、ここでは数例を紹介。「けんかごま」は、複数人が同時にコマをまわし、一番最後までまわっていたものが勝ち。あるいは、２つのコマをひもで接近させ、先に倒れなかったほうが勝ち。「手のっけ」は、コマを空中でまわし、コマがひもから離れる瞬間にひもをひいて引きつけて手のひらにのせ、手のひらでコマをまわし続ける。「指のっけ」は、同様に指の上でまわし続ける。
ビー玉あて（※２）	ビー玉の遊び方は多様であり、ここでは一例を紹介。3~5名が集い、地面に5mの正方形の枠を書く。じゃんけんで最初に攻める人を１人決め、負けた人は、枠内へ自分のビー玉を投げ入れる。攻める人は、枠内のビー玉を狙って外からビー玉を投げ入れる。当たって中のビー玉を外へ出せればビー玉を得られる。当たらなかったら次の人と交替する。全員のビー玉が外に出たら１ゲームが終了。
おはじき（※３）	主に女の子の遊びで、遊び方も多様。ここでは一例を紹介。まず、「おはじき」用のガラス玉を重ならないようにテーブルあるいは床、地面にばらまく。そしてじゃんけんで順番を決め、勝った者が最初におはじきのどれか２つをぶつけ合う。当たったら１つもらえる。ぶつけた石の間に別のおはじきをうまく通過させられたら、通過させたおはじきを１つもらえるという遊び方もある。
さんかくとり	紙に適当にたくさんの点（20個以上程度）を描く。ジャンケンで順番を決め、勝った人が点と点を線で１回結ぶ。線を引いていって三角ができたときには、その中に自分の名前を書く。こうして次々に三角を作っていく。そして、三角を一番多く作れた人が勝ちとなる。ジャンケンで決まった順番という運にも左右される遊びといえる。

種類	遊びかた
お手玉（※４）	主に女の子の遊びで、遊び方も地方等により多様。ここでは一例を紹介。人数は２名以上で。お手玉は５個程度使う。ジャンケンで順番を決め、勝った人は、一つのお手玉を空中に投げ、その間に残りのお手玉を取る。たくさん取れた人が勝ち。 なお、お手玉は、昔は母親や祖母が裁縫で作ってくれることが多かった。お手玉となる袋の中には小豆を入れたりした。"
あやとり	遊び方は多様で、あくまでも一例を紹介。おもに毛糸を使い、リング状に結んだひもを用意する。「ゴムひも」は、左右の手、指にひもを通して向かい合わせ、手を広げたりくっつけたりすることでゴムのように伸びたり縮めたりさせる。「ぱんぱんほうき」は、最後にパン!と手のひらを打ち合わせてホウキの形をつくる。そのほか、「うでぬき」「指ぬき」「一段（二段）はしご」など、遊び方の種類は枚挙に暇がない。
長なわとび	長い縄を用意し、縄をまわす役の２人が、その縄を上下にぐるぐると輪を描くようにまわす。その他の子どもたちは縄の中に入り、回る縄のスピードを見はからいながらジャンプして足下に縄を通過させる。チーム対抗で跳んだ回数を競ったり、回っている縄の中に一人ずつ入っていき、1回跳んで外に抜けることを繰り返す遊び方もある。また、遊び方に合わせた歌も「おじょうさん、おはいんなさい」など各種ある。

▼こま（※1）



▼ビー玉（※2）

▼おはじき（※3）

▼お手玉（※4）